

# 平成28年度 第2回磐田市在宅医療介護連携推進協議会次第

平成28年9月14日(水)午後7時00分～午後8時30分

あい

i プラザ(磐田市総合健康福祉会館)2階 ふれあい交流室2

## 1. 開 会

## 2. 会長挨拶

## 3. 協議事項

(1) 市民意識調査(最終案)について【資料1】

(2) 平成29年度の協議会委員構成について

(3) 看取りや終末期医療等の市民啓発について【資料2】

## 4. 報告事項

(1) 在宅医療介護連携支援相談窓口について【資料3】

(2) 多職種グループワーク研修について【資料4】

(3) 施設等訪問について【資料5】

(4) みんなでつくる“磐田市の地域包括ケア”を考える講演会について

(5) いわた医療・介護ガイドブック情報更新について【資料6】

( 6 ) ごみの出し方ガイドブック ( 在宅医療廃棄物 ) について【資料 7】

## 5 . その他

( 1 ) 平成 28 年度第 3 回協議会 日程 平成 29 年 2 月 日 ( 水 ) 午後 7 時

会場 <sup>あい</sup>i プラザ ( 磐田市総合健康福祉会館 ) 2 階 ふれあい交流室

## 6 . 閉 会

## 在宅医療に関するアンケート調査へのご協力をお願い

日ごろから磐田市の保健行政について、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

皆様すでにご存知のとおり、わが国では急速に高齢化が進み、磐田市においても高齢化率（65歳以上の方が人口に占める割合）は現在、27.0%となり、2025年（平成37年）には、30.2%まで上昇すると推計されています。

こうした中、磐田市では市民の皆様が自宅において日常生活を送りながら、訪問診療・訪問介護などの医療・介護サービスが受けられ、可能な限り住みなれた地域・家庭でいきいきと暮らすことができるよう、在宅医療支援体制づくりに取り組んでいます。

そこで、市民の皆様が、在宅医療・地域医療等について、どのように受け止め、どのようなお考えをお持ちなのか伺い、今後の市政の参考とさせていただくために、アンケート調査を実施することとしました。

主旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

### 【アンケート調査対象】

市内にお住いの40歳以上の方 2,000名（無作為抽出）

### 【個人情報の取り扱いについて】

回答内容は、統計的に処理するためアンケートに記載された内容が、そのまま公開されることはなく、調査結果は上記目的以外に使用することはありません。

平成28年11月

磐田市

### < 調査票のご記入にあたって >

○1 ページ左上の学区番号は、あなたのお住いの中学校区を表したもので、あなたのお名前が分かるものではありません。地域別集計を行う際に必要となりますので、消さないようお願い致します。

○ご記入いただいた調査票は、11月30日（水）までに同封の返信用封筒に入れて郵便ポストにご投函ください。切手は不要です。

問合せ 磐田市健康福祉部健康増進課健康支援グループ（iプラザ3階）

電話：0538-37-2011 / FAX：0538-35-4586

E-mail：kenko@city.iwata.lg.jp





9.車いすやベッド等のレンタルサービスがあることを知っている	はい	いいえ
10.手すりの設置など簡単な住宅改修が介護保険でできることを知っている	はい	いいえ
11.ショートステイを知っている	はい	いいえ
12.地域包括支援センターを知っている	はい	いいえ
13.居宅介護支援専門員（ケアマネージャー）について知っている	はい	いいえ
14.認知症で困った時の相談先を知っている。	はい	いいえ

訪問 ...自宅等に来て、サービスを提供する

介護認定...介護サービスを利用するためには、要支援1・2または要介護1～5と認定を受ける必要がある。

問15-1 あなたが、脳卒中の後遺症などで医療や介護が必要となった時、主にどこで過ごしたいですか

- 1 自宅                    2 有料老人ホームやサービス付高齢者向け住宅等  
3 特別養護老人ホームなどの介護施設            4 病院            5 その他(                    )

1...有料老人ホーム：高齢者向けの施設で、入居者に食事の提供、入浴・排泄等の介護、洗濯・掃除等の家事、健康管理のいずれかのサービスを提供している住居。

2...サービス付高齢者向け住宅：バリアフリー構造などを備え、安心できる見守りサービスが付いた住居。比較的身の回りのことが自分でできる方が対象。

3...特別養護老人ホーム：日常生活で常に介護が必要で、在宅での適切な介護が困難な方が、介護を受けることができる施設。介護認定を受け、要介護3以上の方が入所できる。

問15-2 問15-1で、そのように答えた理由は何ですか（複数選択可）

- 1 住み慣れた場所にいたいから            2 自由に過ごしたいから  
3 家族と一緒にいたいから            4 介護が行き届いたところで生活したいから  
4 積極的に治療をしたいから            5 病状の悪化や急変時への不安がないから  
6 経済的だから            7 その他(                    )

問15-3 問15-1で「1 自宅」を選択した方は、実際に自宅で過ごすことが可能だと思いますか

- 1 可能            2 困難を伴うが可能            3 不可能            4 わからない

問 15 - 4 問 15 - 3 で「1 可能」以外を選択された方は、その理由は何ですか（複数選択可）

- |                            |                |
|----------------------------|----------------|
| 1 介護する家族がないから              | 2 家族の負担になるから   |
| 3 病状の悪化や急変が不安だから           | 4 経済的に負担だから    |
| 5 住宅環境が整っていないから            | 6 イメージがわからないから |
| 7 自宅で適切な医療や介護を受けられると思わないから |                |
| 8 なんとなく                    | 9 その他（ ）       |

問 15 - 5 あなたは、ご家族が脳卒中の後遺症などで医療や介護が必要となった時、主にどこで過ごしてもらいたいですか

- |                    |                         |          |
|--------------------|-------------------------|----------|
| 1 自宅               | 2 有料老人ホームやサービス付高齢者向け住宅等 |          |
| 3 特別養護老人ホームなどの介護施設 | 4 病院                    | 5 その他（ ） |

問 16 - 1 あなたが、認知症になり介護が必要となった時、主にどこで過ごしたいですか

- |                    |                    |          |
|--------------------|--------------------|----------|
| 1 自宅               | 2 グループホームや有料老人ホーム等 |          |
| 3 特別養護老人ホームなどの介護施設 | 4 病院               | 5 その他（ ） |

グループホーム...認知症対応型共同生活介護といい、認知症状態にある方が、家庭的な環境で日常生活を送る住居。

問 16 - 2 あなたは、ご家族が認知症になり介護が必要となった時、どこで過ごしてもらいたいですか

- |                    |                    |          |
|--------------------|--------------------|----------|
| 1 自宅               | 2 グループホームや有料老人ホーム等 |          |
| 3 特別養護老人ホームなどの介護施設 | 4 病院               | 5 その他（ ） |

問 16 - 3 13 - 1 で「自宅」以外を選択された方は、その理由は何ですか（複数選択可）

- |                            |                |
|----------------------------|----------------|
| 1 介護する家族がないから              | 2 家族の負担になるから   |
| 3 徘徊等の対応に不安だから             | 4 経済的に負担だから    |
| 5 住宅環境が整っていないから            | 6 イメージがわからないから |
| 7 自宅で適切な医療や介護を受けられると思わないから |                |
| 8 なんとなく                    | 9 その他（ ）       |

看取りについて

問 17 - 1 あなたは、終末期（がんなどで治る見込みがなく、死期が迫っている状態）を、どこで過ごしたいですか





望まない等を記載した書面を作成しておきたいと考えますか

- 1 すでに作成済み 2 作成したい 3 作成したいと思わない 4 わからない

問 19 - 3 人生の最終段階の医療や看護、看取りについて、家族と話題にすることはあります

- 1 よくある 2 たまにある 3 全くない

問 20 自宅で医療や介護を受けることについてどのようなイメージをお持ちですか  
それぞれ該当する数字を○で囲んでください。

	とてもそう思う	やや思う	あまり思わない	思わない
ア．自宅でどのような医療を受けられるかわからない	4	3	2	1
イ．自宅でどのような介護サービスを受けられるかわからない	4	3	2	1
ウ．急に病状が変わった時の対応ができない	4	3	2	1
エ．訪問診療をしてくれる医師を見つけるのが難しい	4	3	2	1
オ．訪問看護でどのようなサービスを受けられるかわからない	4	3	2	1
カ．訪問診療・看護では十分な医療が受けられない	4	3	2	1
キ．家族に負担がかかる	4	3	2	1
ク．部屋や風呂・トイレなど住環境が整っている必要がある	4	3	2	1
ケ．費用が高額になる	4	3	2	1
コ．今ではがん末期でも痛みのコントロールをしながら自宅で過ごすことができる	4	3	2	1
サ．自宅でも満足のいく最期を迎えられる	4	3	2	1
シ．医師や看護師・介護職員等の訪問が精神的負担になる	4	3	2	1
ス．その他のイメージがあればお書きください ( )				

問 21 その他、医療や介護等についてご自由に意見をご記入ください

( )

## 市民、関係者への啓発実績・予定

平成 27 年度	内容
平成 27 年 8 月号 平成 27 年 11 月号 平成 28 年 12 月	<p>広報いわた(地域医療月間:かかりつけ医等)</p> <p>広報いわた(看取りシンポジウム・地域包括ケア)</p> <p>みんなでつくる“磐田市の地域包括ケア”を考えるシンポジウム 「看取り～自分らしい生き方を共に考える～」 約 900 人</p> <p>○病院出前講座(私らしく最期を迎えるためには) 介護施設職員 14 人</p>
平成 28 年度	内容
平成 28 年 6 月 平成 28 年 6 月 平成 28 年 7 月 平成 28 年 9 月 平成 28 年 9 月 平成 28 年 6 月 平成 28 年 7 月 平成 28 年 7 月 平成 28 年 9 月 平成 28 年 9 月 平成 28 年 9 月 平成 28 年 9 月 平成 29 年 1 月号 平成 29 年 2 月 平成 28 年 9 月	<p><b>※実績</b></p> <p>民児協地域福祉部会 (在宅医療・介護連携の推進～磐田市を取り巻く医療の現状から)</p> <p>市民団体 地域医療いわた総会(超高齢社会を生きるために) 39 人</p> <p>磐田市保健委員会全体研修(地域医療の現状と今後について) 160 人</p> <p>介護サービス事業者連絡会(地域医療構想と看取り場所について) 137 人</p> <p>市民団体 地域医療いわた勉強会(これからの過ごし方)</p> <p>○出前講座(知っておこう 磐田市の医療と介護の資源)</p> <p>川袋自治会 40 人</p> <p>福田民児協 18 人</p> <p>池田地区社協 52 人</p> <p>○病院出前講座(地域包括ケアシステムって何?～病院看護師がわかりやすく自分たちにできること、考えておくことを伝えます～)</p> <p>社会福祉協議会 27 人</p> <p><b>※予定</b></p> <p>第 3 回「豊田みんなつながり隊」(多死時代を迎えるにあたって)</p> <p>広報いわた</p> <p>みんなでつくる“磐田市の地域包括ケア”を考える講演会 タイトル未定</p> <p>○出前講座 旭ヶ丘老人クラブ 23 人予定</p>
平成 29 年度	

## 在宅医療・介護連携に関する相談支援

### 磐田市としての当初の考え方

平成 28 年度 4 月から、健康福祉部内に相談窓口を試験的に設置し、実際に在宅医療・介護等を担う専門職が、日ごろの業務でどのようなことで困っているのか、どのような問題を抱えているのかを把握し、磐田市として、在宅医療・介護連携に関する相談支援に関する相談窓口の在り方を検討することを目的とする。

なお、人材については、新たに新規採用等により確保するものでなく、現行の体制の中に於いて、行政保健師等を当てることとし、業務負担等についても検証を行う。

平成 28 年 8 月末現在、相談件数は 14 件。

相談者	相談内容	対応と結果
訪問看護師	介護認定有、障害手帳ももつケースについて、家族のネグレクトではないか。 医療・介護サービス、包括の関わりあり。	福祉課障害福祉グループ担当者と情報共有、サービスの状況確認をした。結果、虐待案件ではなく、ケアマネや他の事業所との連携不足、対象者の情報収集・アセスメント不足のための捉えであり、相談者に状況を伝えた。
包括職員	日本語があまり通じない外国人の方が退院し、在宅で療養するが、サービス提供時の通訳について。行政ではどうしているか。	通訳が必要なお宅に訪問するときには、原則ご本人に友人や会社の通訳等手配してもらい、どうしてもものときは、行政の通訳を依頼している旨返事をした。
包括職員 訪問看護師	病院から退院する際の介護申請の必要性、あるいはタイミングについて、転院が決まっても介護申請を進められたり、がんの末期等で訪問診療と訪問看護とベッドがあればよいのに介護申請していたり、といったケースがある。	介護保険室、病院地域医療連携室と調整をし、話し合う場の設定を投げかけた。 話し合いをし、お互いの状況を確認した。
リハビリ職	ケアマネジャーや本人・家族とリハビリの目的と目標を共有したく、サービス担当者会議の開催をケアマネに要望しても開いてもらえない。また、本人の体調に波があり、月によっては計	包括主任ケアマネとケアプランについて検討し、サービス担当者会議の開催をもう一度要望してはどうかと提案。 事業所管轄エリアの包括主任ケアマネにつなぎ、ケアマネのフォローを

	画の半分ほどのサービスしか入れない。本人に合っているプランなのか。	依頼。
訪問看護師	病院から退院後しばらく経っている末期がんのケースから、依頼があり、次の日訪問をしようと思ったら、朝亡くなっていた。状況を聞くと、動けなくなっからしばらく経っていて、どうしてももっと早く介護保険、訪問看護につながらなかったのか。	対応したケアマネジャーから詳細な状況を聞きとり、退院後の状況を病院へ情報提供し、病院での対応について検証を依頼。 外来担当看護師の役割の強化を確認してもらった。
ケアマネジャー（看護師）	感染症が原因で、デイサービスの利用を断られた。正しい知識があれば、感染が簡単に起きないことはわかると思う。介護職に理解を促してほしい。	他の件も含めて、病院にご協力いただき、介護職向け研修ができないか、提案。
ケアマネジャー	かかりつけ医と言えるかかりつけ医がいらない、急な状態変化の利用者に対し、訪問診療をしてくれる医師がいるか。	サービス担当者会議に出席し、家族の意向や状況を伺ったうえで、いくつか提案した。
包括職員	病院からの退院を控え、家族が包括に介護申請についての相談に来所。「病院が連絡しておくと言っていた」と来所するが、実際には連絡がないケースが続いた。	地域医療連携室に確認をお願いした。

その他、意見・要望等

## 平成 28 年度 第 1 回 多職種グループワーク研修 報告書

1. 日時：平成 28 年 8 月 1 日（月）19 時 00 分～21 時 30 分
2. 会場：i プラザ 2 階 ふれあい交流室 1～3
3. 内容：別紙次第のとおり
4. 参加者：65 人（医師：6 人、歯科医師：3 人、薬剤師：6 人、地域包括支援センター職員：7 人、訪問看護：6 人、訪問介護：6 人、リハ職：5 人、デイサービス職員：7 人、居宅介護支援専門員：7 人、歯科衛生士 9 人、磐田市立総合病院看護師 3 人）
5. アンケート結果（回収数：60）

職種		性別		時間帯	
ケアマネ	7	男性	17	平日夜	41
主任ケアマネ	3	女性	43	土曜午後	11
訪問看護師	4	不明	0	土曜夜	5
看護師	6			日曜午前	0
医師	6	年代		日曜午後	0
歯科医師	3	20 代	2		
薬剤師	6	30 代	9		
ヘルパー	2	40 代	19		
理学療法士	3	50 代	24		
作業療法士	1	60 代	6		
言語聴覚士	1				
生活相談員	1				
歯科衛生士	6				
介護福祉士	5				
サービス提供責任者	2				
保健師	3				
不明	1				
計	60				

内容（講義）

大変良い	17
良い	33
普通	7
あまり	0
良くない	0

（同職種GW）

大変良い	25
良い	29
普通	5
あまり	0
良くない	0

（多職種GW）

大変良い	38
良い	19
普通	2
あまり	0
良くない	0

全体時間

短い	0
少し短い	4
ちょうどよい	46
長い	5
大変長い	3

事例について

大変よい	26
よい	27
普通	5
あまり	0
良くない	0

自分の役割

再確認	56
変わらない	4

他職種の理解

理解できた	53
出来なかった	0
元々理解していた	2

今後連携できそうか

できそう	20
機会があれば	32
必要ない	0
できない	0

特にどの職種の理解が深まったか

薬剤師 10、訪問看護 5、歯科衛生士 4、歯科医師 3、ヘルパー3、医師 2、理学療法士、言語聴覚士、リハ職、ケアマネ、介護福祉士、医療系 各 1

特にどの職種と連携できそうか

薬剤師 7、歯科医師 3、歯科衛生士、医師、ケアマネ 各 2、  
看護師、訪問看護、デイサービス、理学療法士、リハ職、ヘルパー、介護福祉士、  
栄養士 各 1

その他意見等

- ・介護保険対象者だけで地域包括ケアができないのはわかっています。なぜこの話し合いに行政の保健師が入らないのでしょうか。
- ・月初め、週初めで辛かったです。

- ・ケアマネさんを通し、いろいろな方々と 連携をとっていきたいと思いました。
- ・為になりました。グループワーク活発でした。
- ・いろいろな職種の方のご意見伺えて勉強になりました。
- ・なるべく多くの方が参加できるように、同様の会を増やしてほしいです。
- ・各地域（例えば包括支援センター単位）でケア会議のような形態で、多職種グループの定例検討会を開催するのはどうか。
- ・とてもよかった。刺激になりました。是非、継続してください。

#### 6. 今後に向けて

多職種のグループワークについて、過半数が「大変よい」と答えていたことから、普段、連携を取っていても、なかなか一度にこれだけたくさんの職種の意見を聞ける機会がないと思われるため、他職種の理解や今後の連携につながっていきそうな気がした。

今回は、特に薬剤師さんの活躍が目立ったようであるが、歯科医師や歯科衛生士の理解が他職種から深まったという意見もあり、職種ごとの取組の差のある中ではあるが、少しずつ連携を取る機会が増えていけば、職種全体の取組も進んでいくのではないかと感じた。

今回は、栄養士に声をかけられず参加がなかったが、介護系の施設内にいる栄養士等にも声をかけ、次回は参加を募りたいと思う。

今回の結果は、様々なところでお知らせし、今後の参加を促し、多数の人が広く参加していただける研修にしていきたいと思う。

**74 才男性 脳梗塞後 肺炎（誤嚥性疑い）**

身長・体重 : 160 cm、42kg BMI : 16.4

主訴 : ムセる. 食べこぼす.

病歴 : 脳梗塞後, 食事中のムセが出てきた. 1か月前に肺炎(誤嚥性疑い)のため2週間入院した. 退院後, 食事内容を普通食からきざみ食に変更したものの, 肺炎前より食事時のムセが多くなった. ムセるので食べるのが億劫になり, 最近5カ月で約9kgの体重減少を認めた. 1週前の血液検査でのAlbは2.6であった.

バイタル : 125/75 mmHg 76bpm 36.8

疾患 :           11年前           胃癌 (胃全摘)  
                  10年前           聴神経鞘腫 (術後右顔面神経麻痺出現)  
                  8ヶ月前          左側脳梗塞 (軽度右麻痺)  
                  高血圧, 抑うつ

服用薬 :       ファモチジン (ガスター)           20mg   1T 朝  
                  アスピリン (バイアスピリン)       100mg  1T 朝  
                  アゼルニジピン (カルブロック)    16mg   1T 朝  
                  プロピペリン塩酸塩 (バップフォー)  45mg   1T 朝  
                  センナエキス (ヨーデルS)         80mg   2T 眠前  
                  チアプリド塩酸塩 (グラマリール)   50mg   2T2X 朝夕  
                  ドンペリドン (ナウゼリン)        10mg   3T3X 毎食後  
                  コデインリン酸塩 (リン酸コデイン)  5mg    3T3X 毎食後

希望 : 食べるのが好きなので, 経口摂取を続けたいと思っているが肺炎も怖い. 理由は何であれ入院はしたくない. 在宅で生活したい.

家族主訴 : 本人の食べたい意欲があるので, リハビリを受けたい. 自宅で暮らしてほしいがムセが多いので不安.

認知症高齢者の日常生活自立度 : a (家庭外で, 日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても, 誰かが注意していれば自立できる)



寝たきり度： A2 （外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている）

要介護度：3

主な介護者：妻（軽度うつ・認知症疑いあり）、近所に住んでいる長女、息子夫婦がときどきヘルプに来てくれる。

生活の状況その他

- ・ 月曜、水曜、金曜はデイサービスを利用。
- ・ 火曜日、木曜日の昼食は長女が準備しヘルパーが食事介助。
- ・ 週末は息子夫婦が介護している。
- ・ 部分床義歯を装着中。鉤歯（義歯のばねをかけていた歯）が歯周病で抜けてしまったが、そのまま歯科にかからず放置している。口腔ケアは自身で行っているが、口臭が強く口腔乾燥も認められる。

医療

- ・ 3ヶ月に1回、近所の大病院の神経内科を受診。
- ・ 訪問看護など訪問医療系サービスの利用はない。

その他のサービス

- ・ 火曜日、木曜日は昼 45 分食事介助
- ・ 電動ベッドレンタル
- ・ 月1回ショートステイ（2泊3日）

栄養的な事項

- ・ 身長 160 センチ、体重 42 k g（5ヶ月前は 51kg）
- ・ 食事摂取量はデイサービスでは 2/3 で、きざみ食を食べている
- ・ 水分は退院当初はとろみを付けていたが、面倒くさくなって、現在はとろみ無しになっている
- ・ 自宅ではおかゆと煮魚などのおかず。おかずは半量程度のみ
- ・ 一日当たり 800kcal と推測

第1回 磐田市多職種グループワーク研修

事例検討：在宅での摂食・嚥下障害

## グループワークメモ

グループ番号 \_\_\_\_\_

この紙は研修終了後そのまま机に置いてお帰りください

**74才男性 脳梗塞後 肺炎（誤嚥性疑い）**

この方に適した栄養摂取方法や今後の医療・ケア提供に関するプランングをして下さい。  
（担当者や具体的方法：訓練，介助，ケア，投薬などについて具体的に挙げて下さい）

## 施設・事業所等訪問状況について

### 目的

事業所の職員の内訳、状況等を確認し、医療と介護の連携がより円滑に進む方策を考える。  
本人が望んだ場所となるべく療養できるための、行政、病院の役割を考える。

### ○確認事項

- ・定員、空き状況
- ・職員体制(人数、職種)
- ・食事の対応(制限食等)、食事介助
- ・協力、契約医師、歯科医
- ・可能な医療処置
- ・口腔ケア
- ・外部サービスの利用
- ・利用者の状況(平均介護度、必要な医療処置、認知症等)
- ・看取りへの取組、本人、家族の意思確認
- ・介護職の吸引研修の意向
- ・今後に向けての考え方
- ・職員の研修
- ・他事業所との連携
- ・行政、病院への要望
- ・その他

平成 28 年 8 月末までの状況(訪問者:地域医療連携室 佐藤師長・佐伯)

### ○訪問事業所数・内訳

- ・サービス付き高齢者向け住宅 9/10か所
- ・有料老人ホーム 2/3か所
- ・ケアハウス 1/3か所(特定施設入居者生活介護)
- ・グループホーム 2/15か所(他施設併設)
- ・小規模多機能型居宅介護 3/3か所(他施設併設)
- ・デイサービス 9/54か所(他施設併設含む)
- ・病院、診療所 1/99か所

### ○見えてきた課題

- ・看護職の横のつながりが弱い(働く場が違うと持っているスキル、考えが違う場合も)
- ・看護師の配置体制、スキルにより、医療処置への対応が左右される
- ・リスクは負いたくないという施設側の考えによって、受け入れが限られる
- ・明らかに老衰で、職員が説明しても家族が延命治療を望む場合がある
- ・相談できる医療者がいるかいないか、いる場合には関係によって、介護事業所での対応が違ってくる。



# 在宅医療廃棄物

在宅医療廃棄物の多くは、感染性が低いものが多いですが、注射針など針刺し事故によって感染症に感染する危険性を持ったものもあります。下記の分別区分に従って、ごみ集積所に出してください。

分別区分	カレンダー印	具体例	注意事項
<b>可燃ごみ</b> 台所ごみ類 プラスチックごみ類 (2袋まで)		<p>紙おむつ (汚物はトイレへ)                      ガーゼ                      包帯</p>	紙おむつについた汚物は、できる限りトイレに流してください。  使用済み注射器は、針なしの状態です。捨ててください。注射器は、注射筒のみ回収の対象です。
		<p>医療用手袋                      ペン型インスリン注入器                      使用済み注射器(針なし)</p>	
<b>カテーテル類(チューブ類)</b>		<p>点滴ライン 吸引チューブ 膀胱留置カテーテル 栄養カテーテル</p>	カテーテル類など長いものは、50cm以内に切ってください。
<b>資源にするごみ</b> プラスチック製 容器包装 (4袋まで)		<p>点滴バッグ・プラボトル                      薬の包装シート (錠剤・カプセル)</p>	♻️マークが目印です。バッグ・ボトル内に残った液は、ハサミで切り込みを入れ、捨ててください。(べたつく場合は、軽く水ですすいでください。)
<b>危険物など</b>	<b>市では回収しません</b>	<p>ペン型自己注射針                      血糖自己穿刺針                      鋭利だが、安全な仕組みを持っているもの</p>	<b>処理の仕方は、かかりつけ医に相談してください</b>
		<p>医療用注射針                      点滴針                      鋭利なもの</p>	

監修 磐田市在宅医療連携ワーキング会議 (健康増進課)

ごみを出す場合の基本ルール  
 ごみの出し方が変わります  
 可燃ごみ  
 プラスチック製容器包装  
 空缶(缶)空ビン(ペットボトル)  
 廃食用油/金物  
 小型電化製品  
 有害ごみ/埋立ごみ  
 ごみ集積所に出さばいけなもの  
 自己搬入/自己搬入先地図  
 粗大ごみ/戸別収集  
 リサイクル/ステーション  
 ハンコン・携帯電話リサイクル  
 家電リサイクル  
 ごみの出し方 Q&A  
 しつぱい  
 耳より情報  
 在宅医療廃棄物